



校長挨拶

パリ日本人学校のホームページへようこそ。

パリ日本人学校長 小野江 隆

毎年、白亜のパリ日本人学校校舎の周りには、桜の花が咲き、ここで学ぼうとする子どもたちの息吹で満ち溢れています。本校は、欧州で3番目の歴史ある日本人学校です。1973年にパリ市内トロカデロにある旧日本国大使館に開校しました。その後、児童生徒数の増加に伴い、1983年には中学部がシユレーヌへ移転。さらに1990年にパリから20kmほど西のサンカンタンに移転し現在に至っています。また、本年度は開校46年目を迎えました。

本校は、日本の学習指導要領に基づいた教育課程の実施を文部科学省に申請して認可を受けているフランス国内では唯一の日本人学校です。数年間のフランスでの生活の後日本に帰国する子どもたち、そしてここフランスで長く暮らす子どもたち、様々な立場にある子どもたちに対して、日本国内と同等以上の教育を行うことを目標としています。世界で活躍できるグローバル人材を育成することを指導の重点として取り組んでいます。

また、フランスで生活していることの意義・価値を踏まえ、日仏の文化・教育交流を図り、相互理解に重点を置いた教育活動を充実させています。小学部1年生からフランス語、英会話の授業を導入し、中学部になると、特に英語の授業時数が増えるなど、外国語の指導に重点を置いています。現地の複数の学校との定期的な交流も毎年行われています。さらに、安全に十分注意しながら、現地理解を促進するために地元モンティニー市サンカンタン地区や、パリ市内、そして広くフランス国内において校外活動を積極的に行っています。フランスにある貴重な文化的遺産が保管されているルーブル美術館、オルセー美術館、ポンピドゥーセンター、オランジェリー美術館、ロダン美術館などの芸術に触れる機会を最大限生かして、授業に取り組んでいます。昨年度は、小学部高学年は、ルマン地方に、中学部は南フランス方面において宿泊を伴う体験学習や修学旅行を実施しました。

本校からは毎年多くの子どもたちが巣立ち、また卒業を待たずに転出していきます。その後機会があつて本校を訪れる人も沢山いますが、そうした人は誰もが本校の雰囲気に触れて和やかな表情を見せてくれます。編入してくる子どもをいつでも温かく受け入れることのできる子どもたち、転出していく子どもたちはいつかまた世界のどこかで会えることを信じながら、涙とともに笑顔で別れます。ここに通った子どもたちにとって、「生涯のふるさとの学校」でありたいと願っております。

本校には校則がありません。子どもたちが、自分で判断して、本校の児童生徒としてふさわしい行動をします。教室には、子どもたちの穏やかな声と思いやりがある優しい空気が満ちあふれています。一人ひとりが夢をもち、仲間とともに学び合いながら成長するパリ日本人学校は、校訓「明るく・仲よく・たくましく」をめざす「心のふるさととなるあなたを大切に作る学校」です。

全23名の学校スタッフが一丸となって、「子どもたちの安全を第一に考え、保護者の皆様に安心してお子様を通わせていただくことができる学校」を目指して、教職員一丸となって精一杯取り組んでまいります。よろしくお願いいたします。